

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「税の恩返し」

都立武蔵高等学校附属中学校 3年 仲野 瑛太郎

私は先天性部分無歯症だ。生まれた時から永久歯が人より少なく、虫歯、歯周病、審美性などに悪影響を及ぼす可能性がある。私は足りない歯の数が多く、より深刻な影響も考えられた。現代の医療でも完全に治すことは難しいが、歯列矯正などの治療を行うことで将来的にかかる負担を減らすことができる。しかし、矯正治療は大きな痛みが伴う。幼い頃の私にとっては決して軽くない負担で、いつも不平不満を漏らしていた。

ある日、矯正治療にかかる費用について知った。その額は私の想像の何倍も高く、どのようにしてその費用を負担しているのか疑問に思い、両親に聞いてみた。すると、確かに治療の費用は高額だが「保険」が適応され自己負担が軽くなること、その財源には一部税金が使われていることを教えてくれた。私の治療は、両親とお医者さんだけでなく、会ったこともない沢山の人の支えによって実現している。そのことを知った私は、治療に対し前向きに取り組めるようになった。また、私の治療を助けてくれている税金についても興味を持ち、調べてみることにした。もし保険が無ければ、この治療を受けられなかったかもしれないからだ。

人は誰も病気や怪我にあう可能性がある。次はあなたの番かもしれない。そうなったときに助けてくれるのが保険だ。私の場合は自己負担が3割で済んでいる。これは公的医療保険制度によるものである。この制度は全ての国民が助け合うことによって、誰もが安心して医療を受けられるようにするためのものだ。この制度の財源は主に保険料と公費、つまり税金で賄われている。外国にはこのような制度がない国も存在し、日本の医療保険制度は、非常に水準の高い社会保障制度だと言われている。税金の用途はこれだけではない。私は今まで税金に対し、漠然とマイナスなイメージを持っていた。しかし、詳しく調べれば調べるほど、税金が私たちの生活を至る所で助けてくれていることが分かり税金に対する見方が変わる。学校や公園、普段何気なく歩いている道路にだって税金が使われているそうだ。

日本には古くから「結」という言葉がある。これは日本の農村で生まれた、協力して労働をし、助け合って生きていくという考えだ。形は違えども、税金は現代の「結」といえるのではないかと思う。私達は一億人以上の助け合いの輪の中で生活しているのだ。

私の将来の夢は歯科医になることだ。歯科医として、矯正治療などで苦しんでいる子供たちの支えになりたいと思う。それだけではなく懸命に働き、きちんと納税をしたい。今までも、そしてこれからも、私は税金に支えられながら成長していくのだろう。納税をし、その税金が誰かの助けになるのなら、それが私を支えてくれた人たちに対する最大限の恩返しになると思うからだ。